

大念佛

No.56
発行／融通念佛宗総本山
大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

迎春



融通念佛宗管長

倍巖良舜

平成二十二年の新春おめでとう
ございます。
昨年では政界も大きく動きました。
経済も厳しい状態が続いています。
私達も政治、経済に無関心ではお
られません。国民の為により方向
に動いてくれることを願っており
ます。

昨年五月八日より十二日まで私
と岡田眞澄庶務部長が念法真教教
団の「サイパン鳥戦没殉難者慰霊
法要」に御招待を受け、有り難く
参加させて頂きました。サイパン
島は年平均気温二十七度の常夏の島
ブーゲンビリア、ハイビスカスの
美しい花、プルメリア(南洋桜)

と呼ばれる美しい木。波静かな大洋、まさに地上の楽園であります。ところが六十数年前太平洋戦争の末期、昭和十九年にはこの島が地獄と化し、アメリカ軍に追いつめられた日本軍はこの年の九月にはほぼ全滅しました。多くの日本人の住民の内、数千名の方が島の北端マツピ岬のバンザイクリフ、スーサイドクリフという断崖絶壁より飛び降り、自決されました。米軍の撮ったフィルムで、モンベ姿の女性が次々と飛び降りる姿をみると血の凍るような思いが致します。今でも旧日本軍の戦車の残骸や米軍上陸用舟艇の残骸、砲弾で吹きとばされた山はだなど戦争の爪あとがなまなましく残っております。念法真教教団が平成二十年五月にバンザイクリフに立派な戦没殉難者慰霊塔を建立されました。丁度建立一周年の五月十日にこの地において念法真教の稲山靈芳御燈主を始めとし、約二百名の念法信徒の方々と共に厳肅かつ荘厳な慰霊法要が厳修され、その法要に参列させて頂きました。日本は太平洋戦争で三百万人の戦没者を出しました。その内二百四十万人が外地で亡くなっておられます。この大戦を実際に知っている者は年々少なくなってきましたが、この史実を忘れてはなりません。今の日本はかなり平和ボケになっています。もう少し緊張感を持たねばならぬと思っております。

私は今年満年齢で米寿を迎えることになりました。私の生まれた

大正十一年は軍縮時代で、まだ平和の風が吹いておりました。アイシユタイン博士が来日したり、東京シンフォニーオーケストラが創立されたり、大正ロマンの空気が残っております。しかし、昭和六年に満州事変がおこり七年には満州国建国、十一年には二・二六事件等を経て日本は急速に軍国主義化していきます。その後、昭和十六年太平洋戦争に突入、そして二十年に敗戦しました。それから戦後の混乱期が数年続き、その後急速に復活し、今日のように経済的には大国といわれるようになりました。
この激動の時代をのりこせたのは神仏の御加護を頂いたおかげであると厚く感謝をいたしております。さて五年さきの平成二十七年には、融通念佛宗開宗九百年と大通上人三百回御遠忌の大法要が執り行なわれます。御遠忌奉修局も立ちあげられました。教宣法要部・記念事業部・勤財会計部の三部に分かれています。いよいよ具体的な活動が始動することと思えます。
九百年も経っているのに宗団としては関西のみに閉じている現状を大変残念に思っています。融通念佛宗や総本山大念佛寺の知名度をもっと上げるように致さねばなりません。
大通上人が天和二(一六八二)年より融通念佛宗の復興に奔走され元禄元(一六八八)年に幕府より融通念佛宗独立の許可を得られました。この間、大坂と江戸の間を五回程往復されておられます。その御苦労たるや大変なものであったと思います。大通上人の三百回御遠忌にむけて融通念佛宗興隆のため、宗内一致協力して全力で頑張っていかなければならないと思っております。

融通念佛宗や総本山大念佛寺の知名度をもっと上げるように致さねばなりません。

開宗900年記念 大法要
大通上人300回御遠忌
平成27年5月1日～5月7日

初詣
大晦日除夜鐘つき法要
年末年始は本山へ
融通念佛宗
総本山 大念佛寺

総本山で 三年に一度の 加行執行

黙々と修行”そこに仏法がある

融通念佛宗務総長 吉村 暉 英

十二月二十日より二十七日まで、加行とともに、宗門の伝燈相承式が修行され、四十九人の修行僧（所化導かれる人）が入行する。

この行法は三年に一度、冬に行われるもので、加行とは宗門の血脈・密伝等を伝授するための準備的な修行をいう。具体的には水行、勤行（おとめ）、礼拝、作務（労働、掃除）法儀講習などである。

伝燈相承式は法脈と宗脈の二つに分かれ、法脈は日常生活規範として仏さまのいましめ（戒法）を受け、宗祖良忍上人が阿弥陀仏から感得された御文を伝授される。宗脈は奥伝ともいふべきもので、



法脈を終えた者はさらに深い境地の法門を伝授される。これを密伝という。

本来は準備的修行と伝燈相承式の二つに分かれるが、普通には加行といえはこの二つを合わせた総

称として用いられる。

本宗においては、檀信徒を導くための資格を得た僧侶（これを教師という）になるために、毎年日を決めて行われる安居（二週間、本山中で宿泊し修行、宗学を習得、法儀の研鑽等を修するもの）を四回、そして三年毎の冬の加行二回（法脈と宗脈）の計六回の規定された大きな修行の関門がある。

法脈を受けるには先に安居を一回以上は受けておかねばならない。また宗脈は三回以上の安居を成満し、法脈を済ませた者が有資格者となる。

次に加行の日課を簡単に述べる。以下のようにある。朝四時起床、洗面を済ますと直ちに水行、五時から朝の勤行と礼拝、続いて諸堂

と歴代人墓所の参拝、七時朝食八時から九時三十分まで法儀講習と講義、九時三十分水行、十時から日中の勤行と礼拝、十一時中食

講習、十四時三十分水行、十五時から日没の勤行と礼拝、十七時薬石（夕食のこと、仏道修行においては、午後は食事をしないという古来のしきたりに従い、空腹をしのぐため薬を服するという意味で食を摂る）続いて入浴、十九時法儀作法と講義、二十二時就寝となっている。

ざつり詰まった日課を仏法の教えに添って、黙々と行っていく。「黙々と」というのは理屈抜きにということである。なんのために

修行するのか、こんなことをして何になるのかという一切の疑念や理屈を投げ捨てて修行する。仏道修行に理屈はない。強いていえば修行のために修行するものである。

早朝四時の水行はさすがにきついもので、近年は暖冬のせいである。水行の「瞬の無念無想の境地、身心にみみなる緊張感こそ、他では体験できない大切な修行である。水行は一日三回、勤行の前に行うが、最終二日間には道場に入って伝燈式を伝授されるから、その前にも沐浴して身と心を清めるから四回となる。

食事は「食事作法」によっていただく。一粒の米、一碗の汁にも、これを提供してくださった多くの人の苦勞を思い、天地自然の大きなめぐみに感謝していただくのである。そしてわれわれの生命をつなぐために、この食物が自らの生命を犠牲にしてくれているということに思いを致すのである。

加行、安居のときだけが修行ではなく、仏教の説くところは、日常の行住坐臥（歩くこと、止まること、すわること、臥すこと、この四つはすべての動作の基本である）からこれを四威儀という修行ということである。

また、昨年の夏に別時念仏の会主催の「子供修行体験（念仏会）」のお手伝いをしました。一泊二日にわたる行事でしたが、私達寺院は子供念仏会のスタッフの方と、行事に参加した子供達の食事作りをしました。三食共、全て精進料でおかわりもしてくれました。

現代の社会では、小さな子供達

新年にふせて

寺庭婦人会会長 宗田 康美

新年明けましておめでとうございませう。

寺庭婦人会が発足して、今年で二十七年目を迎えます。先輩会員や現会員の皆様の努力と協力を得まして、年間を通じて色々な行事を行っております。

五月三日は「万部会バザー」として、会員から品物を寄付していただき、それを本山の万部に参詣下さった方々に販売し、その収益を、本山の横にありまます大念佛寺社会事業団の方に毎年、そして隔年ごとに大阪府と奈良県の社会福祉協議会の方に寄付させていただいております。少額ではありますが、続けさせて頂けることに感謝しております。

また、昨年の夏に別時念仏の会主催の「子供修行体験（念仏会）」のお手伝いをしました。一泊二日にわたる行事でしたが、私達寺院は子供念仏会のスタッフの方と、行事に参加した子供達の食事作りをしました。三食共、全て精進料でおかわりもしてくれました。

現代の社会では、小さな子供達



奈良県知事室にて



子供修行体験

が仏教の教えに触れる機会はなかなかありません。若いご両親や、祖父母の働きかけで、こうした縁をいただいで子供達は修行を体験していただきました。子供は、不思議と順応性があり念仏やお経に違和感なしに入っていくと、大阪・大念寺通信にも書かれてありました。雑念や先入観のない純真無垢な心こそ、仏様の教えが届くのだと思います。小さな豆菩薩さん達が一泊二日といえど親元を離れ、一生懸命そして楽しく修行する姿を目の当たりにした時、必ずや、心の底の底に人としての素晴らしさ、念仏会のお手伝いを通して、家庭の中でお寄りだけが仏様に手を合わせるのではなく、大人も子供も家族揃って手を合わせるという家庭環境の大切さを改めて認識しました。

私達寺庭婦人会は、今年も「少しでも人様のために」との思いで活動してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

七つの幸せを招く「なにわ七幸めぐり」 第九回 なにわ七幸めぐり俳句大賞

投句無料

吟行し、メールあるいは、

ハガキで応募して！

入賞も!!

主催

大阪天満宮・住吉大社・四條畷神社・
大念佛寺・太融寺・今宮戎神社・四天王寺

応募締切／平成二十二年三月三十一日まで（消印有効）

作品／主催する七社寺ゆかりの年中行事、風景、歴史などを

素材とする未発表の作品。

応募要項／①応募料は無料です。

②応募句数は、一人につき七句までとします。

七句を超える応募は選考の対象とはなりませんので

ご注意ください。

③応募句の描写した社名を、応募句ごとに付記して

ください。

④氏名、郵便番号、住所、電話番号、年齢を「記入の

うえ、官製はがき・封書・Eメールのいずれかで、

ご応募ください。

選考／宇多喜代子・和田悟朗・大石悦子・茨木和夫

賞／大賞 四名以内（賞状・副賞 一万円分の商品券）

特別賞 四名以内（賞状・副賞 五千円分の商品券）

佳作 二十名以内（賞状・副賞 三千円分の商品券）

発表／平成二十二年五月一日

〔受賞者に通知すると共に、

各社寺の境内に掲示します〕

表彰式／平成二十二年五月二十二日 会場・四天王寺

大阪天満宮くゆかりの句

西山宋因 向來庵跡碑の句碑

難波津にさく夜の雨や春の花

宋因

住吉大社くゆかりの句

大橋櫻坡子の句碑

住吉に歌乃紙あり初詣

櫻坡子

四條畷神社くゆかりの句

天保二年建立の句碑

昔問へばすすき尾花の嵐吹く

永田友之

大念佛寺くゆかりの句

小林一茶が訪ねて呼んだ句

春風や巡礼共がねり供養

一茶

太融寺くゆかりの句

芭蕉一五〇回忌 天保十四 建立の句碑

しら菊の目に立て見る塵もなし

芭蕉

今宮戎神社くゆかりの句

阿波野青歌の句碑

陋巷を好ませたまひ本戎

青歌

四天王寺くゆかりの句

生田南水の句碑 隣に花朝の句碑也

布流花乃ち里々たらりや聖霊会

南水

なにわ七幸めぐり

WWW.WEB SITE

〈PCホームページ〉 <http://www.geocities.jp/naniwa7kou/>

NANIWA SHICHIKOU ホームページ

〈メールアドレス〉 naniwa7kou_haiku@yahoo.co.jp

三回目の子供修行体験開催される

別時念仏の会 山田陽道

七月三十日、三十一日と一泊二日の日程で総本山大念佛寺におきまして、別時念仏の会により「子供修行体験」が開催されました。第一回、二回は宇陀市下芳野の補陀寺（好野良博住職）をお借りしての開催でしたが、今回は、より修行色を強くしようとご本山をお借りしての修行体験実施となりました。



大自然に囲まれた補陀寺での修行体験とは違い、本山での修行体験はお勤めや法話の聴聞を除いてはほぼ部屋での缶詰状態。レクリエーションの企画は周囲の街灯により、暗くもない本山墓地での肝試し程度で、三度の食事も寺庭婦人会の協力による肉・魚抜きの精進料理という内容でした。念仏会会員も心を鬼にして修行



つてくれてもらえれば、開催者としては嬉しいことだと思っております。子供たちに植え付けられた念仏修行体験の種が芽を出し、いつか大きな実を付ける日が来るよう願っております。



大念佛寺仏教講座

仏教とは何か？ 仏教の歴史を解りやすくお話しします。宗派にかかわらずどなたさまでもご聴講下さい。

- ◎日時 毎月 第2水曜日 午後2時～午後4時30分
- ◎会場 大念佛寺 白雲閣1階 大広間
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026
- ◎受講料 無料（参加申し込み・参加資格不要）

第1期講座

平成22年 1月13日 2月10日 3月10日

講座 ①「お釈迦さまの生涯とその教え」
戸田孝重（教学研究所研究員 柏原 西光寺副住職）

講座 ②「日本仏教史の基礎講座」
神崎壽弘（教学研究所研究員 東大阪 圓通寺内）

※どの講座から受講されてもかまいませんので、多数のご来場をお待ちしております。

末寺巡礼 柏原・八尾・東大阪の寺々

大東 良 清

清水山 山井寺

柏原市山ノ井町七三

清水山と号し、享和元(一八〇一)年、刊行の「河内名所図会」に「山井堂の傍に清冷甘味な閻伽井」という泉あり」と紹介されている。

ご本尊は高さ一・二メートルの阿弥陀如来立像。寛政八(一七九六)年、祐山上人の時に建立の記録はあるが本堂に吊るされている半鐘には天明元(一七八一)年の寄進記録が残っている。また、明治二年良存上人が二十三世との記録から推測して、おそらく創建は江戸中期の一七〇〇年代のはじめではないかと思われる。



山井寺

明治初期の本堂は、当時の地主早川喜太郎氏によって古寺を移築され、その後老朽化し、昭和五十四年再建され、平成七年庫裡も新築されている。

護法山 壺井寺

柏原市法善寺一・〇二〇

平安時代「法禪寺」という立派な寺院が建立されていたのが、兵乱のため堂塔全てを焼失。その後再建されたのが現在の壺井寺。今の本堂は明治二十年に布忍の大林寺近くにあった永興寺のお堂が当寺に移築されたもの。現在その永興寺の名残をとどめる建造物としては唯一のものとなっている。本堂としては珍しく寄せ棟造りでもともとは観音堂であったと考えられている。



壺井寺

当寺にはまた、避雷観音の伝承も伝えられている。これは、かつて法禪寺の境内に壺の形をした井戸があり、その上に小さな観音さまがまつられていた。中世の頃、雷がこの地にしきりに落ちるようになり、困りはてた里人が観音さまにおすがりしたところ、観音さまは雷を井戸の中へとじこめ、今

後この里へは落ちないことを約束させたというものである。この観音さまは、白鳳時代の貴重な銅像として大阪府より有形文化財の指定を受け、当寺にまつられている。



放光山 意満寺

八尾市黒谷三二五九

黒谷は、東高野街道の南高安より信貴山への数十丁ある参道沿いの村で、お寺はその参道の四丁目という丁石がある所にある。放光山と号し、現在の本堂は、寛政三(一七九二)年に再建されたものである。ご本尊は阿弥陀三尊座像、両祖師は木像である。信貴山参道の十丁目の茶屋あたりにあったと思われる毘沙門天王立像も、おまつりしている。



意満寺

一乗山 大善寺

東大阪市池島町一・四四

一乗山と号し、慶長十二(一六〇七)年、当寺初代、廓天上人の開基である。寛延二(一七四九)年、魏天上人が本尊阿弥陀佛立像を寄進した。宝暦年中(一七五一〜一七六三)、北河内柳本家より智山上人が入寺し、中興初代となる。安永元(一七七二)年、智山上人は、梵鐘並びに鐘楼を建立した。中興二代兼山上人は本堂再建を発願し、文化三(一八〇六)年、中興三代察山上人の時、本堂再建となった。明治末年には、開基以来十八代舜山上人が鐘楼を再建したが、



大善寺

当時の梵鐘は戦時中に供出し、現在のものは昭和三十一年に再鋳されたものである。現在の住職は開基以来第二十一代目、中興第十代目である。

インターネットで大念佛寺の情報をご覧下さい。

<http://www.dainenbutsuji.com/>

●JR大和路線平野駅から南へ歩いて5分
●大阪市バス平野駅筋、近鉄バス平野元町6丁目下車すぐ
●地下鉄谷町線平野駅①②出口から北へ歩いて8分

大念佛寺年中行事ご案内(二月〜七月)

奏のうちに菩薩さまがお練りをされる儀式です。

- 修正会 一月一日 午前五時 国家安泰・五穀豊穰・万民豊樂を祈願して法要が修されます。
- 融通念仏会 五月十六日 午前十一時
- 百万遍会 五月十六日 午後一時
- 東照大権現忌 五月二十二日
- 河内御回在御帰院 五月二十九日 午後三時頃
- 中祖法明上人御忌法要 七月七日 午後一時
- 定例布教 毎月二十六日 午後一時三十分
- 大念佛寺仏教講座 毎月第二水曜日 午後二時〜四時三十分
- 写経のご案内 毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経(巻千円)を行なっております。
- 納骨のご案内 本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で納骨を受け付けています。宗派は問いません。

●春季彼岸会 三月二十日

●写経奉納供養・筆供養 三月三十一日 午後一時

●万部法要 五月一日〜五日 午後一時

阿弥陀経一万部が読誦され、本堂の外側に橋を組んで、雅樂演奏

●元祖聖心大師御忌法要 二月二十六日 午後一時

●河内御回在御出光 三月二日 午前七時三十分

●納骨諸霊追善法要 二月二十七日〜三月五日 午後一時

●再興大通上人御忌法要 三月五日 午後一時

●春季彼岸会 三月二十日

●写経奉納供養・筆供養 三月三十一日 午後一時

●万部法要 五月一日〜五日 午後一時

阿弥陀経一万部が読誦され、本堂の外側に橋を組んで、雅樂演奏

●定例布教 毎月二十六日 午後一時三十分

●大念佛寺仏教講座 毎月第二水曜日 午後二時〜四時三十分

●写経のご案内 毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経(巻千円)を行なっております。

●納骨のご案内 本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で納骨を受け付けています。宗派は問いません。

●謹賀新年 法主 倍巖 良舜 宗務総長 吉村 晴英 教学部長 中江 慈光 庶務部長 岡田 眞澄 財務部長 北川 全宏

話せば心も軽くなる 大阪仏教テレビホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

火曜日：浄土宗・融通念仏宗 水曜日：浄土真宗本願寺派・真宗大谷派
木曜日：天台宗・真言宗 金曜日：臨濟宗・曹洞宗・黄檗宗 月曜日：日蓮宗
(月曜日)金曜日 一月十四日〜十二月二十四日(八月休)

でんわ 〇六(六二四五)五一一〇 午後二時〜五時迄